

トビウオ通信 (H29 第4号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 29 年度第 1 回日本海スルメイカ漁況予報》

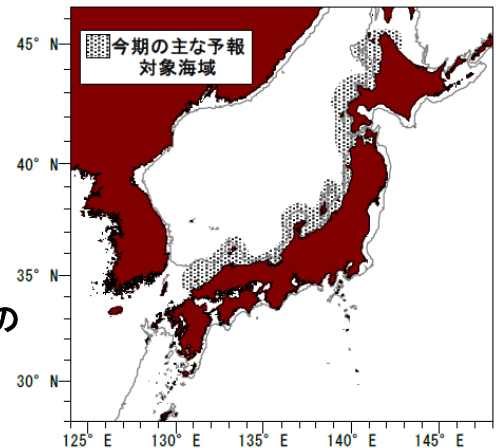
平成 29 年 4 月 28 日に国立研究開発法人水産研究・教育機構（日本海区水産研究所）より「平成 29 年度第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報 ^{※1}」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し(平成 29 年 5 月～7 月)のポイント

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海沿岸域
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：不漁であった前年並で近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：本州北部以北を中心とする漁場における漁期の開始時期は前年及び近年平均並である。

* 近年は最近 5 年間(平成 24 年～平成 28 年)



(1) 来遊量

平成 28 年 10 月～11 月に実施された日本海スルメイカ幼生分布調査では、スルメイカの幼生分布量は前年・近年平均を下回る状況でした。また、平成 29 年 4 月に実施された漁期前調査（スルメイカ新規加入量調査）では、今期に漁獲が期待されるサイズのスルメイカの分布量は、不漁であった前年を上回り・近年平均を下回る状況でした。こうした調査結果から、今期（5 月～7 月）の来遊量は「不漁であった前年並で近年平均を下回る」と予測されています。

(2) 漁期

漁期については、①平成 29 年 4 月中旬の日本海の表面水温は、全体として平年並～高めであり、北緯 40 度付近で高めであったこと（平年は過去 30 年の平均値）、②対馬暖流域における今後（4 月～6 月）の表層水温及び水深 50m の水温が平年よりも「やや高め」（平年は過去 30 年の平均値）

で経過するとの海況予測（平成 29 年度第 1 回日本海海況予報 ^{※2}、国立研究開発法人水産研究・教育機構、平成 29 年 4 月 5 日公表）から「本州北部以北を中心とする漁場における漁期の開始時期は前年及び近年平均並」と予測されています。

※1～2 は以下をご覧ください。

※1 : http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2017/20170428_n/index.html（水産研究・教育機構のホームページより）

※2 : <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2017/20170405/index.html>（水産研究・教育機構のホームページより）

島根県沖でのスルメイカ漁況

主要 3 港（浜田、西郷、恵曇）^{※3} における小型イカ釣（5 トン以上 30 トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図 1 に示しました。平成 29 年の 1 月～3 月までの水揚量は 13 トンで、前年・近年平均を大きく下回る漁況で経過しています（前年比 3%、近年平均比 3%）。

これは、スルメイカの産卵期における海水温等の条件が悪く、新規の加入量が少なかったことが原因であると考えられています。スルメイカは 1 年魚であるため、それらの好条件が揃えば、今後、スルメイカ資源が回復する可能性もあるため、注視していく必要があります。

※3 : 浜田、西郷は属地、恵曇は属人（恵曇支所所属）のデータを集計。

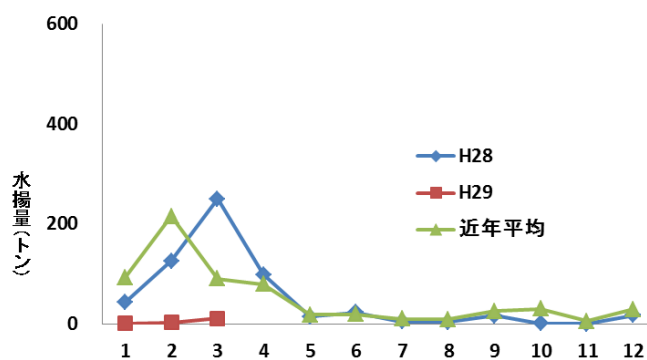


図1. 主要3港(浜田、恵曇、西郷)におけるスルメイカの水揚動向